

授業過程における教師の統制行動に関する実証的研究

東京学芸大学 山田雅彦
yamadama@u-gakugei.ac.jp

本発表は、授業と無関係な、あるいは授業中にふさわしくない児童の言動（私的行動）に対処する教師の様々な言動（統制行動）を授業記録から抽出し、分類を試みるものである。

このような課題の設定は、以下に記すような現状認識と問題意識にもとづいている。

現在、学校教育の場においては、私語や不規則発言をはじめとする児童生徒の私的行動によって授業の実施が困難になる現象が問題となっている。この問題の背景には、授業を実施する前提条件となる、「教師の判断・要求に従い、教師の指導・支援の下で学習する者」としての児童生徒の自己規制が、所与の前提と見なし得なくなっていることがある。児童生徒の多くが、教師の指導に従う義務を感じなくなっているのである。

このような状況下では、従来重んじられてきた「荒れる学級（学校）」への対応策は有効性を著しく低下させる。たとえば、児童生徒に聞いてもらえなければ「よい授業」は無効である。また、説諭や話し合いもほとんど無効である。「教師の言うことはひとまず聞くものだよ」という説諭は、それ自体が「教師の言うこと」であり、この説諭に従うのは、すでに「教師の言うことはひとまず聞くものだ」と思っている児童生徒だけだからである。授業中の私的行動をその都度制止する手法を開発・蓄積することが、授業を成立させる上で重要となっている。

このような問題意識のもと、発表者は、継続的に小学校の授業を見学し、児童の私的行動を統制する原理について会話分析を用いて追究した。研究の手続きは以下の通りである。

- (1)2005年5月から2006年2月にかけて東京都内A小学校の6年生の学級に通い、授業を26回分見学・録画・録音した。これに先だって、2005年2月から3月にかけて同じ学級で授業3回分の試験的な録画を行い、児童と教師のビデオカメラへの馴致期間とした。すべての録画・録音について学校長並びに保護者の事前承諾を得た。
- (2)学級の人数は28人（男子14人、女子14人）、担任教師は教員歴23年の男性である。
- (3)録画・録音機器は、教室前方と後方に録音機を各1、教室後方にビデオカメラを1設置した。ビデオカメラには広角レンズを装着し、常時教室の全景を撮影した。
- (4)録画・録音記録を文字化した。文字化には、主として教室後方の録音機の記録を用い、聞き取り不能箇所や音声に伴う動作を確認するために教室前方での録音と映像記録を適宜参照した。
- (5)文字化記録の中から、児童の私語、不規則発言、手いたずらなど、私的行動が顕在化する場面を抽出し、そこでの教師の対応のしかたを分析した。分析結果は、当日配布する補助資料に詳述する。

謝辞

調査にご協力くださったA小学校に厚く御礼申し上げます。

付記

本発表は、科学研究費による学術研究「「学級崩壊」の抑止に資する、授業過程における教師の統制行動に関する実証的研究（課題番号17530640、基盤研究C）」の成果の一部である。

